事例No.	2175
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	福岡県飯塚市

事例区分	DX

タグ	・福祉・介護 ・新たな政策手法の確立・活用 ・ICT

事例種類	キャッシュレス

事例内容・タイトル

マイキープラットフォームを活用した健幸ポイントのキャッシュレス化実証事業

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

195 マイキープラットフォームを活用した健幸ポイントのキャッシュレス化実証事業【福岡県飯塚市】

事業の概要

○ 飯塚市は、20歳以上の市民に対して活動量計を配布し、ウォーキング・体組成計測・指定イベントへ参加する取組に「いいづか健幸ポイント（インセンティブ）」を住民に提供する事業を、健康行動を促進し、健康課題の改善に伴う社会保障制度の維持、またヘルスケア関連消費や生きがい関連消費の増大による地域経済活性への貢献など、好循環を作ることを目的に実施している。

○ より使いやすい形でポイントを付与し参加者増加を図るため、また、マイナンバーカードの早期の普及を目的とし、ポイントのキャッシュレス化をマイキープラットフォームと民間キャッシュレス決済サービスを連携した基盤を利用することで実施。



○ 民間キャッシュレス決済サービスは、市内の加盟店舗で利用可能な「いいづかPay」を新たに構築し、更なる地域経済活性化への貢献を図った。

【参考情報①】 人口：12.6万人
関連URL：https://www.city.iizuka.lg.jp/kenkotoshi-k/kenkou-point/kenkou-point.html（飯塚市ホームページ）

【参考情報②】自治体マイナポイントモデル事業（総務省）とは
URL：https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei07_02000108.html

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



電子自治体の推進を図るため、キャッシュレス対応ができる地域づくりへの支援やマイナンバーカードの取得促進について検討した結果、地域ポイントのひとつである「いいづか健幸ポイント」をマイナンバーカードを活用した自治体マイナポイントモデル事業にてキャッシュレス化するという構想に行きつきました。

（飯塚市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



システム構築・利用料、マイキープラットフォーム接続や人件費等の全般において、総務省の自治体マイナポイントモデル事業（令和3年度）を活用しました。

★担当：飯塚市市民協働部 健幸保健課、
飯塚市総務部 情報管理課 ★

令和3年度事業費　50,690千円
（うち、自治体マイナポイントモデル事業（総務省）　24,765千円）